

# 北海道浮魚ニュース

平成 22(2010)年度 6 号

2010 年 7 月 2 日

北海道立総合研究機構水産研究本部  
中央水産試験場

ホームページ : [http://www.fishexp.hro.or.jp/ukiuo/uki\\_index.htm](http://www.fishexp.hro.or.jp/ukiuo/uki_index.htm)

## ◎道西日本海スルメイカ調査結果 (金星丸 : 6/22~6/29 の調査)

今年度から、おやしお丸から金星丸による調査に変更になりました。それに伴い、調査海域も変更しています(昨年までの檜山中部~積丹北部海域を、今年度から檜山~積丹南部海域に変更)。

**分布密度は近年の中で高く、外套長モードは前年並み**

### ①スルメイカの分布密度と魚体サイズ

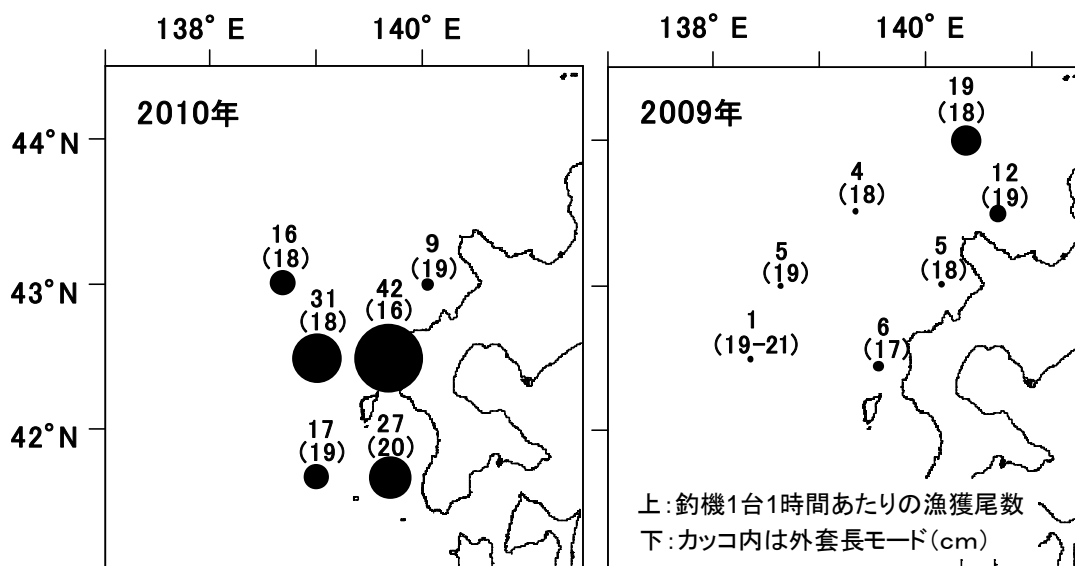


図1 道西日本海におけるスルメイカの分布密度と大きさ

※モードとは各調査点で最も多く漁獲されたイカの大きさのことです。

各調査点におけるスルメイカの分布密度 (CPUE : 自動いか釣機 1 台 1 時間当たりの漁獲尾数) は 9~42 でした (図 1)。瀬棚沖 (42) が最も CPUE が高く、岩内湾沖 (9) が最も低くなっていました。調査全体の平均 CPUE は 24 で、海域は違うものの前年 (7) を上回り、近年の中でも高い値となりました (図 2)。

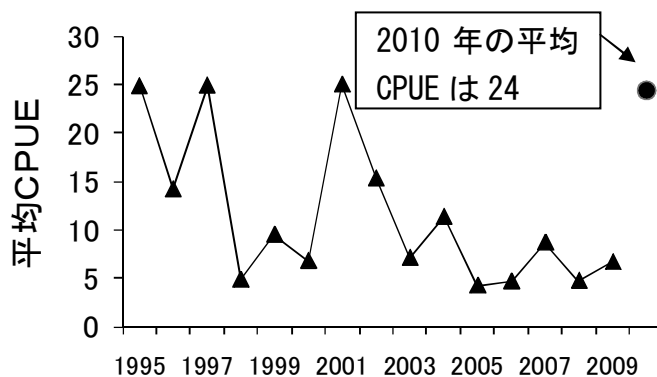


図2 平均 CPUE の経年変化

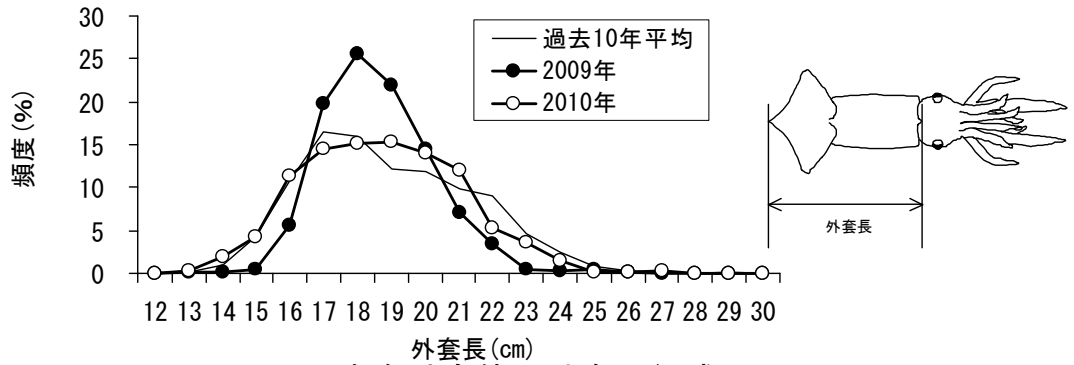


図3 調査海域全体の外套長組成

各調査点におけるスルメイカ外套長のモードは16cmから20cmで(図1)、瀬棚沖の調査点が16cmと一番小さく、松前沖が20cmと一番大きくなっていました。調査海域全体では、17~20cmが多く、モードは19cmと前年(18cm)より1cm大きくなっていました(図3)。しかし、前年よりも16cm以下と21cm以上のスルメイカが多く、過去10年平均に近い組成となっていました。

### ②水温分布

調査海域の50m層水温は、3.6~11.2℃(前年:5.8~14.7℃)でした(図4)。岩内湾の沖で昨年見られた14℃以上の水域はない反面、10℃以上の水域が西方に広がっていました。また、調査海域の表層水温は16.0~20.2℃(前年:15.0~17.6℃)でした。

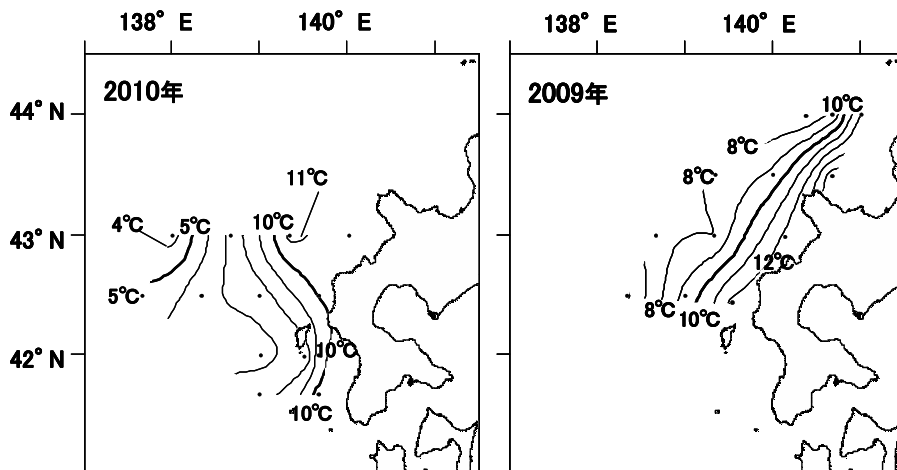


図4 6月下旬の50m深水温

### ③標識放流

3調査点で合計2,556尾のスルメイカに標識をつけて放流しました(図5,表1)。標識は裏面にJPと記載されている「黄色アンカータグ, M57-M79」および「緑色チューブタグ, HKC1-2891~3150」です。標識のついたスルメイカを再捕された方は、お近くの水産試験場にご報告いただきますよう、よろしくお願いいたします。

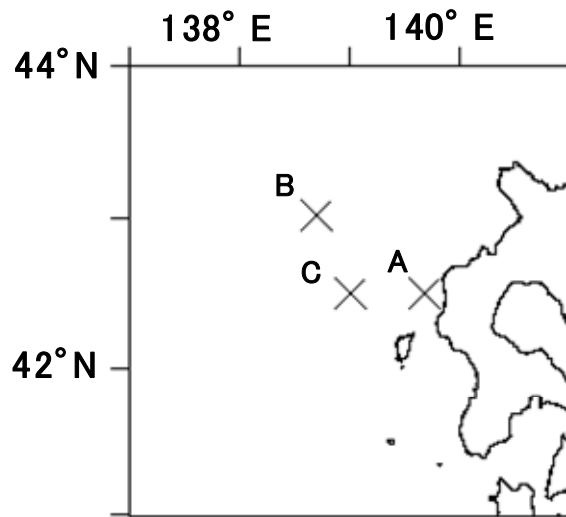


図5 標識放流位置

表1 標識放流情報

No.	放流位置		放流尾数	標識種類	標識番号
A	42-30N	139-40E	1,298	黄色アンカータグ	JP-M57~M69
B	43-01N	138-41E	500	黄色アンカータグ	JP-M70~M74
C	42-30N	139-00E	500	黄色アンカータグ	JP-M75~M79
			258	緑色チューブタグ	HKC1-2891~3150

※今回の調査は「日本海スルメイカ漁場一斉調査」の一環として実施しました。全船の調査終了後の7月下旬には、漁況予報が発表されます。

(文責:中央水産試験場資源管理部, TEL:0135-23-8707, FAX:0135-23-8709)